



～ 勇気ある決断～

◆鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 竹ノ内賢一郎
◆編集責任者/担当 副会長 上田康文 ◆制作・編集 第42期広報委員会/委員長 石原 効

第43期 副会長・専務理事・参与決定

【副会長】



高塚 康治 会員

平成19年11月入会 昭和52年12月生
(株)富士オートメーション 常務取締役
平成26年度 副委員長/平成28年度 委員長



秋里 武信 会員

平成22年1月入会 昭和48年10月生
水道屋あきさと 代表
平成24年度 副委員長/平成25年度 委員
長平成26年度 専務理事/平成27年度 県
出向理事/平成28年度 副会長



福山 輝展 会員

平成22年7月入会 昭和50年1月生
日産プリンス鳥取販売(株) 米子店営業課 課長
平成26年度 委員長/平成27年度 会計担
当理事/平成28年度 専務理事



山口 尚文 会員

平成24年2月入会 昭和52年4月生
山進運輸(株) 代表取締役社長
平成26年度 委員長/平成27年度 副会長
/平成28年度 県出向監事



松井 淳一 会員

平成25年1月入会 昭和50年11月生
(有)渡部 専務取締役
平成26年度 副委員長/平成27年度 委員
長/平成28年度 県出向理事



奥森 秀夫 会員

平成24年5月入会 昭和54年6月生
新和産業(株) 工事部統括部長
平成25年度 副委員長/平成26年度 県出
向理事/平成27年度 委員長/平成28年
度 副会長

【参与】



松田 幸紀 会員

平成16年12月入会 昭和49年7月生
(株)かばはうす 代表取締役
平成19年度 副委員長/平成20年度 委員長/平成21年度 県出向/
平成24年度 副会長/平成25年度 副会長兼委員長/平成26年度 監
事/平成27年度 会長/平成28年度 直前会長

～人手不足の現在「女性にモテる企業とは」～

～3月例会開催～

3月例会では臨時総会が招集され次年度副会長・専務理事・参加が満場一致で承認された。

また、女性の労働力人口が増加しつつあり今後さらに女性の活躍が期待される中で、女性が働きやすい職場を整えるために企業がどのように対応していくべきかを学ぶことができた例会となった。

「自社の発展のために」

平成29年3月16日米子全日空ホテルにて3月例会が開催された。



冒頭、竹ノ内会長から「翔女委員会の活動は我々が経済活動をしていく上で今後避けて通れない問題である。しっかりと学んで自社に持ち帰ってもらいたい」と挨拶があった。

続いて、うえだイベント株式会社の新社屋完成を記念して会よりお祝いが贈られ、「中央会の多くの皆様にお客様になっていたいてこまで来られた。卒会まで残り3期、会に恩返しができるように頑張っていきたい」と上田副会長が感謝を述べられた。

「次年度役員承認」

次年度副会長、専務理事、参加について臨時総会が開かれ満場一致で承認された。その後の委員長タイムでは、高井委員長がプロバスケットチームである鳥根スサノオマジックについて愛情いっぱいに語られた。

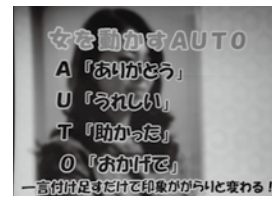
「雇用環境の変化と支援制度」

本例会は「女性にモテる企業とは」というテーマのもと行われた。翔女委員会吉田委員長から「女性を雇用している企業がどのように対策しているか実際に企業訪問をして検証してきた。その情報をもとに映像を作成したのでそれを見たらうえて女性にモテる企業と一緒に考えてもらいたい」と趣旨説明があった。

第1部では「女性が求める職場」「進化する職場と女性雇用」について、映像によって資料や寸劇等で分かりやすく事例を解説された。女性を取り巻く雇用環境が変わり、近年では男性の労働力人口が7万人減少しているのに対して女性は18万人増加していること、女性の就労に関する意識の変化もあり子どもができてずっと職業を持つ方がよいという女性の割合が約20年間で26.3%から45.8%まで増え、育児をしながら働くことの意識が大きく変わっていることが紹介された。



また、中小企業に勤める女性を例に翔女委員会のメンバーが演じた寸劇が上映され、男性上司の女性社員に対する何気ない言動が多くの問題をはらんでいることが示された。女性は男性が考えている以上に言葉を重要視していること、女性社員に接する態度は平等でなければならないことなど、映像を振り返って女性特有の感情や考え方の解説があった。



第2部では「女性の雇用と補助金」について説明があった。鳥取県は少子化対策・女性活躍

推進を目的に、人材育成や環境整備に取り組む企業を『輝く女性活躍パワーアップ企業』として補助金・助成金・奨励金・アドバイザーの派遣などの支援制度を整えていることの説明があり、これらの活用方法の紹介がなされた。

最後に奥森副会長より「今後少子高齢化により人口が減少していく中、女性を活用していかなければ大きく労働力人口が減少してしまう。男性が女性の思考や行動を理解するのは難しいが、企業幹部や管理職の会員の皆さんがしっかりと女性の雇用について取り組むことによって今後の企業の発展に繋げてもらいたい」と総括があり、本例会は閉会となった。

(記事:渡邊公平)

3月例会を終えて

翔女委員会 委員長 吉田通代



今期、翔女委員会は、昨年9月の例会にて『イクボス』を発信させて頂きました。

そこから、女性を雇用している企業がどのような取り組みをしているのか、実際に企業訪問をさせて頂き、それをもとに寸劇VTRを3月例会に向け作成して参りました。

女性の特徴を取り入れた寸劇VTRを、グループディスカッションを交えながらご覧いただき、賛否両論ですが数多くのご意見・ご感想をいただきました。

人口の減少が深刻化している中、男性の労働力人口年間7万人減少に対し、女性は18万人増加しています。企業として人材不足は避けて通れない問題です。

女性の特徴を知って頂いた上で、今後の女性雇用の参考にして頂けたらと思います。

また、2部では補助金制度(女性活躍パワーアップ企業)についてお伝えさせて頂きました。

企業にとってメリットの多い制度の一つですので、前向きに取り組んで頂ければと思います。

最後に、翔女委員会一人ひとりの力が合わさり、手作り例会を無事に終えることが出来ました。心から感謝しております。本当にありがとうございました。

4月例会に向けて

匠委員会 委員長 村田 博

(村田家(株) 代表取締役)



若草の萌え立つ季節…。めくるめく、鳥取県西部の伝統芸能の世界…。享保12年(1727年)に伝えられ、これまで何度も不運に遭い衰退したが、魂の復活を遂げた「日南神楽」。

第1部では会員の皆さまにぜひ！伝統芸能の「神楽」を五感で堪能して頂き、その崇高な感覚のまま、第2部に移行して頂きたいと思っております。

第2部では『伝統文化の保護と継承』～企業存続への糸口に繋ぐ～というテーマでディスカッションを開催致します。匠委員会は今期、竹ノ内会長から与えて頂きましたテーマを軸に、今期のテーマを『勇猛果敢(ゆうもうがかん)』～未来への継承～と決め活動して参りました。まさに、鳥取県西部地域の伝統文化・技術・名産の保護と継承について勇猛果敢に取り組んで来た集大成を未来へ継承して行けるような例会となっておりますので、ご多用中恐縮ではございますが、ぜひご出席くださいますようお願い申し上げます！

OB訪問 株式会社ライトスタッフ

宮廻裕和OB (第25期ご卒会) を訪ねて



中央会活動では、夢みなと博を全国のケーブルテレビ局に発信

今月は通信販売支援企業 株式会社ライトスタッフ代表取締役宮廻裕和OBを訪問させて頂きました。先輩からの紹介で31歳で中央会に入会され、1年ぐらいはなかなか馴染めなかったそうです。その後、広報委員会の初代委員長を務められ、その時に現在のハンサムのロゴなども決められたそうです。

する際に司会をされたことが思い出に残っているとのことで、携わったイベントなどが特に印象に残っていると語られました。

現役会員には「この街をどう考え、どうなっていけばいいのかを、間違っていないので30代40代の今だからできる提言の場を作っていって欲しい。また中央会で終わらせるのではなく、会で培ったものを次のステップで生かしてほしい」とのお言葉を頂戴しました。

宮廻OBお忙しい中、突然の訪問を快諾して頂き本当にありがとうございました。また緊張して写真を撮るのを忘れてしまい、帰って数分後にもう一度お邪魔することになり申し訳ありませんでした。

(記事:福島)

中央会 Q & A

広報委員会を初めて設置された会長は？

～答えはHPIにて～

第2回大山お地蔵さまプロジェクトに向けて 各部長抱負(後編)

広報部 部長 中村 友紀 (㈱サンイントウエイ 代表取締役)

第2回お地蔵さまフェスティバル開催にあたり、会員と会員ご家族の方、また一般の幅広い年齢層の方々にご来場していただく為、重要な役割だと自覚し緊張感をもって活動を行っています。

西部青年中央会が外部に発信していくこの事業は、継続していくことを前提に、参加する度に親しみを感じ、そして継続して参加することで大山・お地蔵さまの歴史を学びながら楽しんでもらえるように活動内容の告知等をしていきます。一人でも多くの方に参加していただく為に中央会一丸となって頑張っていきたいと思います。



集客企画部 部長 道田 直樹 (㈲ビルド・ミチダ 専務取締役)

集客企画部は私達が手作りした竹の流し台を使用して大崎参道にて全長約50メートルにおよぶ流しそばを企画しています。

大崎参道は一般の方も多く、見られた方に興味をもって頂くことでボランティアの集客に繋げることが出来ると考えています。また、お地蔵様清掃にご参加頂いた方へ、お礼の意味で食事の提供を行います。皆様に喜んでもらえるように精一杯頑張ります！オール中央会で盛り上げていきましょう！！



お地蔵様プロジェクト集客企画イベント「大山そば流し」ミッション パッカーン！初春の晴れ間に青竹を割れ！

2月18日(土) 9:00よりビルド・ミチダ米子支店に於いて、積善委員会と匠委員会を中心とする19名が集まり、お地蔵様プロジェクト集客企画「大山そば流し」で使用する青竹の半割と三脚作りが行われた。メンバーは昨年より用意していた青竹を、手頃な長さに切り半割にする班、節とバリを取り除く班、細い竹を同じ寸法に切り三本一組の三脚にする班の三班に分かれ、中には「普段は工具を持つ事がない」という会員もいたが、一時間も経つと頭から削り粉を被りながらも黙々と竹を加工する職人集団と成っていた。作業の指揮を執る道田部長は「一日作業になる事を覚悟していましたが、人手の多さと段取りが良い御蔭で半日で済みました。」と語った。(記事:長谷川T)



後輩へ

平成15年1月に独立開業し、平成15年5月に青年中央会に入会。約14年間、先輩方にお世話になりながら後輩たちにも支えられ、同級生達と共にやっと卒会でできそうです。長かったぁ・・・お腹いっぱい(汗)。でも幸せでした。

青年中央会では、一人親方ではできない多くの経験をさせて頂きました。「今年の経験を後に生かせ」君は君らしく、自分が最善だと思う事を必死でやれ！」その先輩の言葉を信じて。

誰も失敗しようとして企画・運営する人はいないと思います。成功したいから必死で頭をひねる。当日を迎え結果が出る。青年中央会では、事業にむかう「過程」を大切にしたいです。自分がどう考え、どう企画し、どんな結果を望むのか。事業に参加しないとわからない現場の空気を感じて、その経過を自分の血肉にし、仲間と共有して欲しいです。自分以外の人の過程も役員会議事録をみれば確認できますし。

だから、青年中央会でだけは大いに挑戦して、たくさん失敗して下さい。安全を選び失敗が出来ない場合もあるとは思いますが、自分の望む結果を成功に導くための経験を積むために、どんどん挑んで欲しいと思います。

誰もが45歳で卒会です。個々が目的意識を持って参加し、みんなにチャンスが与えられ、みんなが経験を積めるような、素敵な青年中央会を築いて下さい。

牧田 継夫

(土地家屋調査士牧田継夫事務所 所長)



翔人になるために ～ de Japón ～

第42期会長 竹ノ内賢一郎

先日、とある大手企業のCEOの講演会に出掛けました。さすが時代を生き抜く大手企業のCEO！いいお話を聞けました！なかでも、マネジメントサイクルPDCA (PLAN—DO—CHECK—ACTION)ではなく、変化の激しい時代・情報過多の時代だからこそ【SEE—THINK—PLAN—DO】のマネジメントサイクルに切り替えた方がいいというお話は新鮮でした。(ここでは書ききれないので申し訳ありません。)そして最後は腹を据えてやり抜く！事業構造の転換期を切り抜けた方のお話！最高に響きました！立っておられるだけで、勇壮な空気が溢れ出すのを感じた方でした！いつかそんな勇ましい羽を広げる日が来ることを願い、やり抜きましょう！

鳥取県中小企業青年中央会 臨時総会・ビジネス交流会

3月18日(土)午前には県の臨時総会が倉吉体育文化会館にて開会され、次年度県会長に中部の牧井健一会員、次年度県副会長に東部の千馬高広会員、中部の永川将基会員、西部の三輪龍介会員が選出された。



午後からはビジネス交流会が開催された。他団体やOBも含めて、県下250社が一同に会して企業PRや企業展示を行った。普段、例会などで顔を合わすことはあっても、お

互いの会社についてしっかりと話を聞く機会はなかなか無いだけに貴重な体験となった。また企業だけでなく、鳥取県の職員や鳥取大学の学生もPRに参加し、学生の地元就職や活性化にも触れた。

夕方には懇親会が実施され、東中西の会員企業から出店してもらい、地区の垣根を越えて懇親を深めた。

(記事:松井)



うえだイベント株式会社 新社屋完成

うえだイベント株式会社の新社屋(境港市上道町2239-2)が3月1日に完成しました。

「中央会のOB会員の皆様、現役会員の皆様のお力添えを頂いたおかげで新社屋を完成することができました。中央会とご縁が無ければ今の自分は無かったと思います。イベントや式典などのご依頼頂いたお仕事をこれからも誠心誠意させていただき、頼んで良かったと思って頂けるようにこれからも頑張りますので皆様宜しくお願い致します」と新社屋を建てるという勇気ある決断をした上田康文副会長に想いを語って頂きました。(記事:渡邊公平)



勇気ある決断

監事 千石 正信

私の勇気ある決断は、中央会の会議等において、物事を冷静に見極め、多少言いにくいことでも勇気をもって発言する姿勢を貫いたことです。私も委員長を務めました。委員長は役員会で議論された内容を委員会で報告しなければなりません。その際、委員長が出席者からの質問に答えられなかったり、他の役員から補足されたりすることは非常に恥ずかしいことです。ですから、先に資料に目を通し委員会で質問が出そうなことを予測して積極的に質問や確認を行いました。

人は、置かれた立場でそれぞれの役を演じなければなりません。多少ツラを憎まれることもあります。自分が自分に与えられた試練だと思い活動してきました。

もうすぐ中央会を去りますが、この経験を糧に頑張っていきたいと思うとともに、第二の千石正信が現れることを期待致します。



大山にまつわる思い出

本田 繁(東京印刷(株) 営業)

生まれも育ちも大山町の43歳本田繁です!!

大山町側から眺める北側の斜面は、女性的な柔らかいフォルムの西側の姿とは異なり、荒々しい男性的な姿を露呈する北壁大山です。小学生から高校生まで四季折々の大山を眺めて登校をしていました。母校校歌にも地域の誇るべき大山が歌詞で詠われています。

高校を卒業してからは地元を離れて大阪で学生生活を送り、高速バスで帰省するときには柔らかいフォルムの大山が見えてくると故郷に迎えられている気持ちになっていたことを思い出します。卒業後は地元企業に就職して、荒々しい北壁大山を眺めて気持ちを奮い立たせて勤めていました。

5月14日にお地蔵さまフェスティバルが地元大山町で開催されます。今一度北壁大山を眺めて気持ちを奮い立たせて参加致します。

4月役員会報告

平成29年4月3日(月)米子市公会堂 第1集会室にて開催されました。

当日の主な内容は下記のとおりです。

- ・3月例会報告の件
 - ・4月例会開催の件
 - ・平成28年度OB交流会開催の件
 - ・第2回お地蔵さまプロジェクトの件
- 詳細については各委員長にご確認下さい。

4月例会案内

と き:平成29年4月17日(月)19:00~21:00

と ころ:ヴィレステひえづ ヴィレステホール

内 容:第1部 演目披露

日南神楽神光社『大蛇退治(神能八重垣)』

第2部 パネルディスカッション

『伝統文化の保護と継承』~企業存続への糸口に繋ぐ~

日南文化伝承の会 会長 大柄重人氏

事務局長 小竹 等氏

日南神楽神光社 代表 福島 怜氏

担 当:第42期 匠委員会

編集後記

3人の息子からリチャードとあだ名を付けられています。長男は大学進学の前に小学校の恩師と友達3人と先日食事会をしました。尊敬しあえる間柄で今しかないと考えた彼の行動を誇らしく思います。中央会活動を通じて家庭円満継続中です。(広報委員会 赤井宏之)